

平成26年度 第7回「学校評価」結果

平成27年 3月1日

今年度の重点テーマ

- 【学 校 運 営】 地域社会から信頼される学校運営
- 【教 育 内 容】 生徒の実力の確実なレベルアップ
- 【生 徒 指 導 ・ 支 援】 懇切ていねいな指導
- 【教員研修 ・ 資質向上】 教職員の資質向上による教育の充実

■ 学校運営

目標および評価指針（Plan）

地域から信頼される学校運営をめざす。

- ①建学の精神に基づき、生徒一人ひとりの個性・特徴を活かし、コース制により、それぞれに適した教育を行う。
- ②教職員は、出来る限り生徒に寄り添った気持ちのもと、進級・卒業をサポートする。
- ③教職員の連携を強化し、連帯して生徒の指導にあたる。
- ④部活動を活性化させ、その活動を通じて地域社会に貢献する。
- ⑤転退学生徒を減少させる。

取組状況（Do）

- ①生徒の「自立」をめざし、生徒の悩みなどに対応できる職員体制を構築した。また学内における「いじめ・体罰・各種ハラスメント」の撲滅を目標に連絡窓口を設置した。
- ②生徒個々の状況に応じて、コース・担任・副担任が連携を密にし、対応するように意識した。またそれでも対応できないときには、本校が設置している「適用委員会」にて協議し、特別教室である「学習室」で生徒を勉学できる状況においた。
- ③独自のコース教育を発展させるように、各コースが特色ある活動を推進した。それぞれのコースは、生徒の視野を広げ、地域貢献などを積極的に行った。
- ④吹奏楽部・演劇部などの文化クラブを中心に、地域社会に貢献できる活動を実施した。
- ⑤目標値を設定し、教職員の連携のもの、転退学生徒を減少させた。

達成状況（Check）

私学の独自性

* 建学の精神（教育目標）について

〔設問〕建学の精神（教育目標）が教職員、生徒、保護者など、学校関係者によく浸透している。

◎ 肯定的見解の割合

結果）肯定的見解 35%（－5ポイント）

* 愛校心について

〔設問〕教職員、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。

◎ 肯定的見解の割合

結果）肯定的見解 35%（－8ポイント）

今後の改善方策 (Action)

建学の精神（教育目標）の浸透および愛校心の有無がいずれも低い数字になっている。自己評価の最初の項目であるが、残念ながら本校自身が現在の本校を否定したことになる。これは理事評議員会や校内役員会で取り上げなければならない事態であると思われる。今後本校は何を目指して教育活動を行うのか、どういった学校に成長しなければならないのか、どういった生徒を募集し、どのように生徒を育てていくのか。現場の職員の混乱が生じている。学校が教育方針を打ち出し、将来のビジョンを明示しなければ教職員の一体感は生まれにくい。最大の課題であるのではないだろうか。

教育課程

* 学習指導要領の対応状況

〔設問〕 教育課程は学習指導要領に沿っている。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 93% (+15ポイント)

〔設問〕 年間を通じた教育計画を各教科別に立てている。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 91% (変化なし)

今後の改善方策(Action)

すべての評価のなかで、もっとも良い結果となった。しかし、この項目も今後本校がどのような学校を目指すかを明確にしたうえで、計画的に教育を推進していかなければならないと思われる。特に教科活動は学校の根幹である。生徒や保護者が期待する授業を実施することは当然であり、学校の評価そのものである。保護者評価には、本校の教科活動に不満の声があがっており、評価が低い。学校として早急に取り組むべき問題であると言える。

教職員連携

* 教員・教科間連携状況

〔設問〕 教員間・教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 33% (-19ポイント)

* 教員と事務職員の連携状況

〔設問〕 教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解、連携はとれている。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 42% (-17ポイント)

* 会議の有効性

〔設問〕 教職員会議をはじめ各種会議が、有効かつ効率的に機能している。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 33% (-6ポイント)

今後の改善方策(Action)

この3項目の結果を見ると、学校の組織や重要なシステム自体が機能しづらくなってきていることになる。教員の7割が本校の現状を否定していると言える。当然のことである

が、充実した教育活動を実施するためには、職員間の連携が大切である。現実の問題として、いじめ・からかい、暴力行為、迷惑行為などが発生している本校の現状で、コースによって職員数に差があり、経験年数が少ない教員も増えてきているなか、職員全体で一致協力して教育活動を実施している感が持てていないと思われる。生徒気質の多様化、SNS関連など複雑化する問題行動、または重大事案発生時などに対応するためには職員の密接な連携が不可欠であり、そういうシステムでなければならない。

有効な会議を実施するためには目的意識が明確である必要がある。学校長の明確な方針のもとに会議を運営しなければならない。少人数で行うコース会議などは、議論しにくい部分もあると想像できる。また各コース間の連携も必要である。現状このような場がなく、生徒指導、進学指導等の大切な教育活動が推進しにくいシステムを改善する必要がある。

財務関係

* 財務に関する意識

〔設問〕学校の経営指標と財務状況について理解している。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 26% (-20ポイント)

* 評議員・理事会機能について

〔設問〕評議員会、理事会の役割や機能について理解している。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 7% (-15ポイント)

今後の改善方策(Action)

理事評議員会の役割および機能についての理解は、ついに一桁の肯定率になった。昨年もこの欄に書いたが、情報を公開し、内容を説明する機会を設けなければならない。同じ事は学園財務についても言える。

理事会は、学校法人を代表するとともに、学校法人の業務を決定する権限を有する重要な機関である。このため理事会は、法令上の規定は設けられていないが、ほとんどの学校法人において、寄附行為の定めにより設けられ、学校法人の業務を決定することとされている。こういった意味からも、理事及び評議員、または理事会の役割、機能を明確化しておく必要があると考えられる。

情報公開

* ホームページの活用状況

〔設問〕学校ホームページで可能な範囲の情報公開をしている。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 84% (+6ポイント)

* 授業公開状況

〔設問〕保護者などへ授業を公開している。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 70% (-8ポイント)

今後の改善方策(Action)

ホームページの活用は、今年度のリニューアルに伴い肯定的見解が大きく伸張した。し

かし保護者評価には、発信回数の増加を望む声も出ており、更に充実させる必要がある。授業の公開については、本校の場合、行事予定に組み込んで保護者総会時などに実施している。また中学校向けにも見学懇談会を行っている。例年からすると少し数字は下がったが、今後も継続し、いろいろな方面から考察して「わかりやすい授業」の実践に活かしたい。

危機管理

* 役割分担について

〔設問〕事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 72% (-11ポイント)

* 危機管理対応状況

〔設問〕危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分とられている。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 61% (-2ポイント)

今後の改善方策(Action)

今年度、大きな生徒事故が発生した。当該生徒は快方に向かっているが、突発的な事故であり、防ぐことは困難であったと考えられる。この際の教職員の連携については、非常に良かったと思われる。それぞれが役割をこなし、敏速な対応ができていた。このようなことは発生しないことが一番の理想であるが、どのように対処したかは、後々大きな問題になってくる。今後もの確な判断と敏速な行動でどのような事態が発生しても対応できる組織とシステムの構築を目指したい。

開かれた学校づくり

* 地域交流について

〔設問〕地域や地域住民との交流ができています。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 44% (-13ポイント)

今後の改善方策(Action)

管理職・生徒指導部長を中心に、五校連絡会や泉ヶ丘東中学校区青少年健全育成協議会等への参加を積極的に行っている。また地域のイベントには演劇部や吹奏楽部、または美術部などが参加して協力体制を築いている。会議やイベントは休日である事が多く、職員には周知されていないが、地域では本校の活動について高い評価もいただいている事を理解していただきたい。しかし、本校生徒が地域に迷惑をお掛けすることもしばしばあり、更に信頼を得るためには努力も必要である。今年度は初任者研修の一環として、地域で開催される教育講演会などへの参加を考えたが、休日に重なり参加者はなかった。別の方策を考えたい。本年度の卒業式にもたくさんの来賓を招くことが出来た。評価も上々であったが、更に地域の期待に応えられる学校に成長しなければならない。

■ 教育内容

目標および評価指針（Plan）

生徒の実力の確実なレベルアップ

- ① 基本的な生活習慣の確立を支援する。時間を守ること・挨拶をすること・丁寧に話すことを、社会に出る一歩手前の高校生として当然のレベルに引き上げる。
- ② 情報教育・人権教育・環境教育の推進をめざす。
- ③ 生徒会活動の充実を促進する。また生徒が実際に行う活動を側面から支援していく。
- ④ 国際教育部門について、どのような活動をめざすかを協議する。

取組状況（Do）

- ① 遅刻数の減少に取り組んだ。生徒指導部とコース・担任が連携を強化して、遅刻数減少に取り組み、前年度から大きく減少させることに成功した。挨拶や話し言葉については改善されていない部分もあり、引き続き指導が必要と感じられる。
- ② IT総合・環境福祉コースが中心となり、学校外へ目を向けることによって、より良い活動を行った。環境教育については、堺市と連携し、周辺の池の環境保全に取り組んだ。人権教育に関しては、教務部を中心に、年2回の人権教育を実施した。
- ③ 生徒会としての自主的な活動を支援した。特に学園祭においては、生徒組織の活性化によって充実した催しがなされた。
- ④ 平成27年度に国際交流室を立ち上げる。国際交流をどう推進するのか、具体的方策を関係職員によって協議した。

達成状況（Check）

情報教育

* 情報能力育成

〔設問〕 生徒の情報活用能力の育成を図っている。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 40% (－4ポイント)

* 情報モラル指導

〔設問〕 情報の発信に伴う責任など情報のモラル面の教育に十分取り組んでいる。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 44% (－7ポイント)

今後の改善方策(Action)

この分野における世間の動きは頗る速い。どの学校も追いつけていないのが現状である。新しいCP等を導入してもすぐに新商品が発売され、常に最新の機器を取りそろえることは不可能である。当然教育の内容を重視して取り組まなければならない。そのためにはIT総合コースの発展が必要不可欠である。情報科とコースが中心となって推進してほしい。

また情報モラルについては否定的見解が多いが、教科だけでなく生徒指導部もこの問題に積極的に取り組んでおり、現状は大きな問題に至っていない。しかし常に危険と隣り合わせであり、情報モラルの確立には継続的に取り組む必要がある。

人権教育

* 研究体制

〔設問〕人権尊重に関するさまざまな課題や指導方法を、教員が研究する体制がある。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 37% (-4ポイント)

* 教育体制

〔設問〕人権尊重の教育において、さまざまな学習方法で、意識を高める教育を行っている。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 44% (-3ポイント)

今後の改善方策(Action)

人権教育は国際社会が協力して進めるべき基本的課題であるが、高等学校においては比較的取り組みが少ない現状がある。こういった中では、本校は毎年計画的に取り組んでいる点は評価できる。それでも昨今のいじめ・自殺・体罰等の問題には更に注意して人権教育を推進していく必要がある。

環境教育

* 環境問題意識向上

〔設問〕ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育をしている。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 37% (-4ポイント)

* 実践的態度の育成

〔設問〕生徒に清掃、校内美化に取り組ませている。また、施設・設備を大切にする心を育成している。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 44% (-10ポイント)

今後の改善方策(Action)

清掃活動や校内美化に関して、調査以来初めて50%を下回った。非常に残念なことである。人間としての心を育てることは大切であるが、残念ながら本校生の意識は低い。それでも担任の先生方を中心に、清掃活動や美化活動の指導はしていただいているはずである。来年度は管理職からも啓発していきたい。

健康・食育

* 健康・食に関する指導について

〔設問〕健康教育、食育などにも配慮している。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 9% (-24ポイント)

今後の改善方策(Action)

今年度も生徒・保護者の強い要望として、食堂の充実が出されている。昨年度も改善し

なければならない大きな課題としたが、一桁の結果ではもはや改善のレベルではないと思われる。しかも年度途中にあってはならない事態が発生している。食堂業者の見直しを含め、抜本的な再考が必要である。私学として食堂のあり方は生徒募集に直結する問題である。

生徒会活動

* 生徒会活動支援状況

〔設問〕 生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるように学校全体で支援している。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 19% (-16ポイント)

今後の改善方策(Action)

これほどの低い数字になるとは予測できなかった。生徒会活動に対する生徒の気運が高まらないのが現実ではあるが、生徒指導部も生徒会担当も担任団も支援しているのではないだろうか。生徒自身は身近な出来ることから始めている。例年行事も頑張っている。学校全体で支援するためには、個々の職員がどのような協力ができるかを考えなければならない。

その他

* 読書推進

〔設問〕 図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 21% (-31ポイント)

* 部活動

〔設問〕 部活動は活発である。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 44%(-21ポイント)

* ボランティア

〔設問〕 ボランティア活動は活発である。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 30% (-11ポイント)

* 学校行事

〔設問〕 体育祭、文化祭などの学校行事は活発である。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 54% (-20ポイント)

* スポーツ・芸術文化

〔設問〕 スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 65% (-4ポイント)

* 国際理解

〔設問〕 他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 14% (+5ポイント)

今後の改善方策(Action)

世間が私学を判断する基準は課外活動にある。授業の充実は当然であって評価にはならない。数字が示すように、部活動についての評価は第1回の調査に比べて、半分の肯定率に低下した。頑張っている教員もたくさんいるなか、大変残念な結果であるが、直視して改革しなければならない。早急に学校としての方針を明示して進めなければならない。部活動は、1人の教員力に依存する時代ではなくなってきている。組織的に強化しなければ活性化できない。

また、その他の項目も肯定率が低下している。特に国際理解の分野は、ずっと本校の課題として挙げられている。学校教育のなかで、グローバル化が注目されている時代において、改善されない肯定率では話しにならない。失敗を恐れず、具体的の方針をたてて取り組まなければならない。どの分野も組織的な対応が必要である。

■ 生徒指導・支援

目標および評価指針 (Plan)

懇切ていねいな指導

- ①問題行動が複雑化する昨今において、教員の指導力の向上が欠かせない。生徒個々の事情まで考慮して、丁寧に生徒指導を実施していく。
- ②カウンセリングを必要とする生徒に対応するため、まず担任とカウンセラーの連携が必要と考えられる。些細なことでも、情報を共有していく。
- ③卒業の際の、進路未決定者を減少させる。また生徒それぞれの希望に沿った進路実現に進路指導部とコース・担任が連携して指導していく。

取組状況 (Do)

- ①生徒指導力を向上していくため、研修会を実施した。生徒指導は指導部だけに頼らないで、コースや担任が中心となって指導を行っている。また保護者との連携も重要になっているため、家庭連絡の徹底を図った。
- ②生徒・担任・コース・保健室・学習室・カウンセラーが連携して、生徒の相談にのる形を構築した。また情報の共有のため、校長を中心とした協議会を開催した。
- ③就職希望の生徒が増加する状況があり、進路指導部内の就職担当が、緻密なスケジュールを組み、指導を行った。その結果、一次入試における合格率が上昇した。

達成状況 (Check)

生徒指導

* 指導方針の一貫性

〔設問〕生徒指導は学校の方針に従っている。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 81% (+3ポイント)

* 生活指導について

〔設問〕生徒の生活指導に組織的に対応する体制がある。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 72% (+2ポイント)

* 家庭との連携状況

〔設問〕生徒指導において、家庭との連携ができています。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 75% (+14ポイント)

今後の改善方策(Action)

各コース内で問題行動が発生した場合、教員の指導は万全に近いものがある。いじめ・暴力行為等の重大事案に対応できる体制があると言える。しかし、コースを跨いで問題行動が発生した場合、その対応に苦慮している現状がある。生徒指導は、教員間の連携が大切であり、情報や問題意識を共有しなければうまくいかないことが多い。コース間の連携がうまくとれない場合などは、敏速に指導を進めることができていない。また、コースによって問題行動の発生数に開きがあり、生徒指導経験の少ない教員が多くなってしまいう現状もある。

問題行動が複雑化し、重大事案が発生する可能性もないとは言えない。このような現状のなか、本校では教員間の連携を見直す必要があると言える。

生徒支援

* 学習指導について

〔設問〕学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 54% (-10ポイント)

* カウンセリング体制

〔設問〕カウンセリングマインドを取り入れた支援体制がある。カウンセラーの活用ができています。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 58% (-5ポイント)

* 進路指導について

〔設問〕生徒一人ひとりの興味・関心・適性に合った進路選択ができるような支援体制がある。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 75% (+14%)

今後の改善方策(Action)

どこの私学も「面倒見の良さ」を強調している。退学率や転学率の減少は大きな課題としているが、本校でもこれについての意識をもっと向上させる必要がある。進路支援・学習支援・カウンセリング支援の3項目は、自信を持って体制が構築されているというレベルに引き上げなければならない。学校の方針として、最低限出来ていますと言うレベルでは、他の私学に対抗できないと思われる。

■ 教員研修・資質向上

目標および評価指針 (Plan)

教職員の資質向上による教育の充実

- ① 教員研修を充実させる。初任者研修制度に続いて、中堅者研修制度を充実させるため、専任採用10年目の教員に対して研修を実施する。
- ② 初任者研修の充実をめざす。また研修を受けた後のサポート体制を構築する。

取組状況 (Do)

- ① 中堅者に学外で研修を受ける機会を設けた。学内の事情だけでなく、社会の常識に沿った教育を実施するためには、学外研修が必要であると判断した。また学内においても、中堅者が初任者の手本になるため、研究授業の機会を増加させた。
- ② 初任者研修については、研修の内容だけでなく、サポートする人間が必要である。各分掌長を中心に、学内の仕組みについて研修する機会を設けた。

達成状況 (Check)

教員研修

* 教員の資質向上について

〔設問〕 教員間で授業内容を評価、意見交換などを行う機会がある。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 42% (-21ポイント)

* 校内研修

〔設問〕 効果的な校内研修計画を立案し、教職員に実施している。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 51% (-12ポイント)

* 初任者のサポート状況

〔設問〕 初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 42% (-2ポイント)

* 校外研修

〔設問〕 教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 35% (+2ポイント)

* 研修成果の共有状況

〔設問〕 研修、研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある。

◎ 肯定的見解の割合

結果) 肯定的見解 14% (-8ポイント)

今後の改善方策(Action)

府の制度として、教員研修が企画され実施されている公立高校に比べ、どこの私学も評価が低くなっている項目である。本校では、初任者研修および中堅者研修を実施するようになったが、いずれも研修成果を共有する機会を設けることが出来ず、結果に表れていないように思う。以前に比べ、教員の連携が希薄になっているという声も聴かれ、初任者を

全員が育てていくという体制づくりが必要である。また、各教科内での話し合いの機会やレベルの向上を目指した研修などが出来ていない。時間のないなかではあるが、教員の資質レベルアップのためには必要である。

総合評価

自己評価がますます低下する結果になった。教職員個々の感覚もあり、一概には言えないが、こういった数字は無視してはならないと思われる。特に学校や校長としての方針が明確になっていない項目に関しては、早急に方針を明示し、組織的に推進していかなければならない。私学間の競争が激しくなり、以前のように個々の教員力だけで活性化する時代ではない。校内組織の充実がなければ、どの項目も評価を上昇させることは困難であると言える。今後の学校は、生徒支援に力を入れなければならない。私学は特に考えなければならない。カウンセリング体制の強化・面倒見の良い進学支援や強化支援はこれからの私学には欠かせない項目である。カウンセリング体制を充実させることは、退学率や転学率の減少にも繋がる項目であり、具体的にはカウンセラーの日数増加や支援コーディネーターの任用などは急務である。

またこの自己評価からも本校の食堂に対する不満が明確になっている。今年度の食育項目の評価は、肯定率が1桁であり改善できないであろうか。食育＝食堂ではないが、食堂の改善は学校経営上の問題であると言える。もはやメニューがどうか、価格がどうかの問題ではない。今の形態では、生徒募集にまで関わってしまう。まして生徒の安全を守るという学校教育の根幹に関わる問題である。

学校自己評価が始まって、項目別に結果が数字化され、どの学校でも自校の弱点が明確になっている。学校経営および学校運営上、この結果をもとに改善していかなければ、他の私学には対抗できない。将来に向けての明確な方針が必要である。

※ 調査結果の％表示については、すべて小数点以下を四捨五入した数値である。

学校関係者評価会からの意見 [平成 27 年 4 月 4 日実施]

出席者 堺市福田校区自治連合会長
堺市西陶器校区自治連合会長
堺市東陶器校区自治連合会長
精華高等学校保護者会長
精華高等学校同窓会長
精華高等学校校長
精華高等学校教頭
精華高等学校事務長
精華高等学校教務部長
精華高等学校生徒指導部長
精華高等学校進路指導部長

[校長より]

平成 28 年度で本校は 90 周年を迎える。生徒の満足感を上昇させるため、新しいチャレンジを行っていく。

学校自己評価の結果から、取り組まなければならない課題も多く、また生徒の自尊心の低下が心配であるが、丁寧な教育で進級や卒業の支援を実施していく。

地域・保護者会・同窓会のご意見を頂き、新年度の指針にしていきたい。

[地域からの意見]

◎学校自己評価から

- ・地域イベントに、精華生をどんどん参加させてほしい。
- ・卒業式などを見て、精華生のマナーや様子がかかなり良くなっている。
- ・生徒の自信や誇りを育てる教育を望む。
- ・公立高校に比べ、私学の高校生は雰囲気が良い。もっと自信を持ってほしい。
- ・硬式野球部の敗戦が残念である。しっかりした強化を望む。
地域は期待している。
- ・新しい試みとして、京セラドームでの体育祭は非常に楽しみである。生徒の満足度も高いであろう。地域に野球場が建設予定である。大いに利用してほしい。
- ・地域の幼稚園の卒園式で、精華高校の先生になりたいという園児がいた。喜ばしいことである。
- ・生徒の身だしなみや服装が以前に比べ格段に良くなっている。頑張れば成果が出るのが教育である。

[保護者会からの意見]

保護者会活動や学校行事、懇談会を通じて、たくさんの意見を学校に伝えることが出来ている。協力体制をより強化していく。

- ・保護者の学校に対する協力姿勢は大きくなってきている。
- ・挨拶を大切にした教育をお願いしたい。
- ・クラブ加入率の上昇を期待している。

[同窓会からの意見]

- ・今年度の卒業式は特に良かった。教職員の面倒見の良さが出ていた。
- ・生徒の愛校心を育て、風紀、マナーの向上をめざしてほしい。教職員の愛校心も同様。
- ・精華高校の社会的地位や知名度を向上させてほしい。

[学内の感想]

- ・安心して登校できる、マナー指導を実践している。継続したい。(生徒指導部)
- ・愛校心がまず教育に力を入れていく。(進路指導部)
- ・シビアな意見が聞けて、大変参考になった。地域との連携を強化していく。(教務部)
- ・地域に寄り添った学校づくりから成長して、地域の自慢の学校を目標に懸命な教育活動を行っていく。(教頭)

平成26年度学校評価委員会構成

学校長 教頭 教務部長

生徒指導部長 進路指導部長 事務長

以上6名

